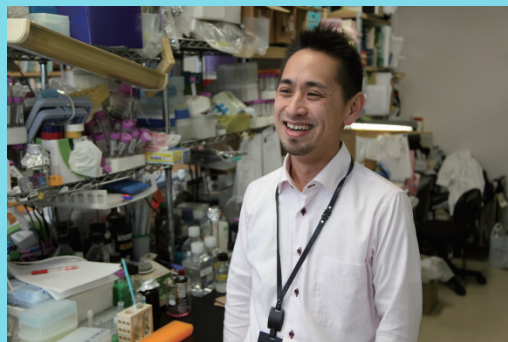


感染生物学分子ウイルス学研究室 ラボ紹介

研究内容紹介

我々の研究の目的は、ウイルスの複製と病原性発現の分子メカニズムを明らかにし、得られた情報を基盤に新たなウイルス疾患の制御方法を開発することです。

原子、分子、細胞、個体の各レベルで研究をすすめ、これらの過程に関わるウイルス遺伝子と宿主細胞由来の遺伝子を同定し、それらの機能と機能構造を明らかにすることをめざしています。これまでの一例として、インフルエンザウイルスのRNAポリメラーゼの構造を決定し、複製機構の



解明に役立てるとともに、その構造をもとにスパコンを活用して新たな抗インフルエンザウイルス薬の開発をすすめています。

一方、宿主因子については、その本来の生理機能を解明することも重要です。その一環として、ウイルス研究から見つけたクロマチン構造変換に関わる因子を中心に、遺伝子発現機構や細胞核の形成メカニズムなども解析を進めています。

筑波大学 大学院 人間総合科学研究科
生命システム医学専攻 感染生物学分野 分子ウイルス学 川口 敦史 助教

Maestro's Favorite

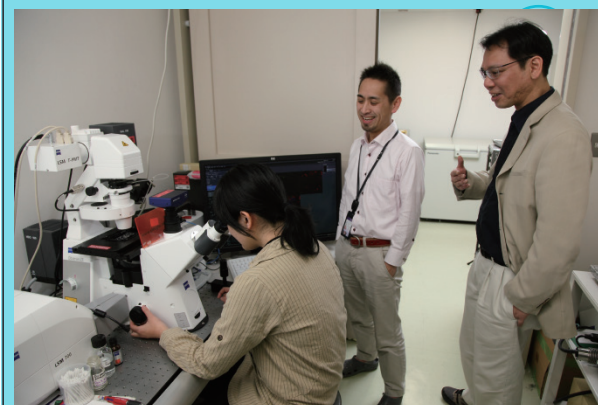
ラボマスターのお気に入り

川口先生ご自慢の愛車と、ライダーズジャケットです。筑波だからこそ楽しめる、SUVのワイルドな走りを満喫していらっしゃるそうです。東京じゃ置き場に困るこの大きさ、筑波に住んでいるからこそ?ということだと思い切って買ってしまった!とのことでした。



研究に対する"こだわり"

当研究室では、学生の自主性を重視します。よって、研究テーマも一人に独立して一つ。設定した研究テーマを自分のフィールドとして、愛着をもってもらい、傲う



だけではなく、自分で“発想”する習慣をもち、学生時から科学者の気概をもって、世界に挑戦してもらいたいという思いからです。もちろん、最初から一人で研究を進めることは不可能ですので、常日頃、研究を見ってくれる若手スタッフをマンツーマンで配置してサポートします。ワークスタイルは特に決めていません。学生とさえど、大学院生はもう社会人といえる

年齢ですので、ある程度の常識的な行動を期待しますが、研究を効率的に推進することを考えていれば何でもOKです。研究に打ち込むには、私生活も充実しているのがベストですので、両方に全力を尽くすことができるとベストだと思います。

C'mon Join Us!

ラボ所属学生の声

各々が自らの研究テーマを持つことができ、一人で論文を完成することが求められる、裁量のある環境です。

Can be more independent because everybody has his/her own theme. People need to finish paper independently. (Jianhuang Lin)



我が研究室は、おそらく筑波で最も大変な研究室です!人々の意識や論文の質はとても高く、とにかく与えられたことをこなすことではなく、新しいものを生み出すことに注力しています。

Our laboratory would be the hardest laboratory in Tsukuba. Quality of people and papers are very high. Focus on something new, not following things.. (Frank SangJoon LEE)